

(済州紀行) ②

民俗オールシジャン(五日市場)

足立 龍枝

2019年3月27日は、2と7のつく道頭洞(ドドゥドン)民俗オールシジャンの日。済州市内からシジャンまで、バスで行くコースを確かめたかったが、辛さん(民泊の息子さん)に車で送ってもらうことになり、約20分のドライブとなった。感謝の連続。



9時ごろ到着したが、7時から19時まで開業しているシジャンからは、買い物を済ませて、もう帰りの人も多い。車の出入りが続く。全体がワンフロア・テント張りになっていて、通路が仕切りの代わり。壁もないので、端から端まで見通せる。明るい市場だ。

オールシジャンは、韓国の伝統市場で、朝鮮時代末期(1880年代末)の行商人の商取引の場所として利用してきたところである。

1905年頃には、觀徳亭の前の広場でシジャンが開場され、以後受け継がれるようになった。その後1930年代には、港に近い健入洞(コンイップドン)地域に移設された。1950年6・25(ユギオ)の時には、避難民のバラックをシジャン跡に建て、シジャンを明け渡すという歴史的過程を経て、シジャンは続いている。

1968年12月、觀徳亭広場周辺に移転、1969年には、西沙羅交差点付近に移転、1974年、現赤十字会館周辺に移転。1982年、総合運動場・室内水泳場を経て、1984年～1986年～1993年と移転を続け、

1998年現在の道頭洞に周りのシジャンは、統合され移設された。土地はグリーンベルト地帯として確保されていたものである。

シジャンは、初めのころは陰暦の2・7の付く日に開かれていたが、現在は陽暦に代わってきた。

シジャンは、全体が大きく30区画ぐらいに分かれている。野菜・海産物・花・穀類……毎日でも食べたいハルラボン(デコポン)は果物コーナー。肉類・日用品・衣類・履物陶器。何でもある。

珍しいところでは布団・ペット・法要用食器類コーナー。オンドル部屋だから、薄い布団でよい。布団は洗濯機で丸洗いできるものもある。そういうれば韓国の洗濯機は大きい。

最近のペットは愛玩用犬が増えている。今回、50匹ぐらいの犬の散歩風景に出会ったが、在来犬(珍島犬など)には会わなかった。

陶器店舗では、キムチを漬ける壺が大量に重ねてあった。



それぞれのコーナーに10～20店ぐらい固まっているので、シジャン全体の店舗の数は、500店ぐらいだろうか。ネットで見ると、5千坪に1000店を超えると出ているが、ちょっと、多すぎるかも。(以上は3月末情報)

5月に訪問した時に、シジャンの事務所で聞いてみた。

みんな忙しそうに動いているが、一人の女性が分かり易く次のように教えてくれた。

●店舗は22品目に分かれている ●店舗数は1004店舗 ●一日平均の利用者数は、平日、

約 5 万人・公・休日、約 10 万人・済州最大の民俗市場である・シジャンは、農産物・水産物・畜産物を取り扱い、店舗以外にも、顧客支援センターなどがあつて充実している。

美しいパンフレットも発行されていた。

シジャンは、どこからでも入れるが、メインの入り口付近には、「ハルマンチャント」というおばあさんの店コーナーが並ぶ。ハルマンチャントは、一店の大きさが広い。20~30 平方メートルぐらいだろうか。主に野菜が商品だ。コンクリートの土間から 40 センチぐらいの高さの板間に、家で作った新鮮な野菜が並ぶ。朝、家族で野菜を車で運んで来て、並べて商売が始まる。自家菜園だけでなく、問屋から仕入れてきた変わった野菜類も並ぶ。



ハルモニたちは小さな刃物を持って、野菜をそろえたり、要らない葉っぱをちぎったり、一日中手を動かしている。

朝は特に忙しい。みんな無口だ。ハルマンコーナーは 20 店ぐらいだろうか。5 日に 1 回の市だから、後の 4 日間に煙の世話をするのだろう。別の日のシジャン（1 と 6・3 と 8・4 と 9・5 と 0）に行くのかもしれない。

2・3 年前に写した写真を渡したかったが、顔が似ていて探せなかった。

朝食をシジャンで摂る人もいる。シジャンの食堂は、透明シートで覆われている。このごろ観光客も増えたので、案内板も整ってきたようだ。

去年亡くなった崔承喜の孫弟子にあたる済州大静邑（テジョンウプ）出身・姜輝鮮さんお

薦めの「コドゥンオクイ（焼きサバ）」の昼食には早すぎるので、初めてシジャンを北に突き抜けてみた。

見えた！！なぜ今まで気が付かなかつたのか不思議に思うが、空港滑走路の西端近く真向かいに、明日登る予定の「道頭峰（ドドゥボン）」が見えた。まわりに邪魔をする建物等はない。何とも可愛い山だ。オルム（寄生火山）という。済州にはオルムが 360 ぐらいあり、36 年前、一番大きなオルム「イルチュルボン（日出峰）」に登ったことがある。

道頭峰の裾にはお寺があり、シジャンから道路も続いているので、近くまで行ってみたくなる。左回りで歩いてみた。5 分おきぐらいに離着陸が続く。歩いている人はいない。車も少ない。道頭峰の近くまでは行けそうだが、歩くには少し遠そうなので引き返した。

シジャンの北側のソメイヨシノは満開だった。

もう一度「ハルマンチャント」を眺めた。真剣なハルモニは変わらず、一日中手先を動かしながらの商いを続けている。ハルモニたちは大体、私と同じ年齢のように見えた。



今回の目標の二番目が「道頭峰」から北の海・滑走路・オイルシジャンを眺めることだ。

あす 3 月 28 日には、関空・成田・福岡……27 人が合流して、オイルシジャンから見た道頭峰に登る。



「濟州紀行」③ 足立 龍枝 65mのオルム・道頭峰(ドゥボン)へ



参考にした本

*濟州歴史紀行 (李映權著・

玄善允訳)

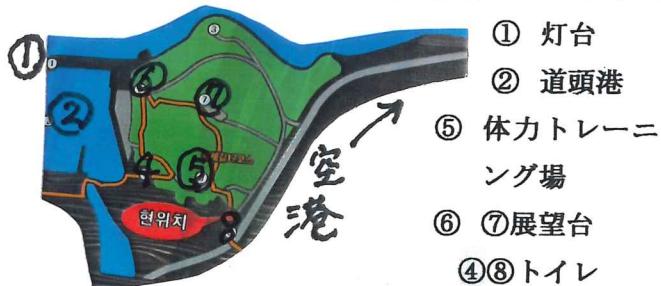
*濟州島を知るための55章

成田からと関空から、同時に到着予定の便だが、成田便がかなり遅れ、バス内で時間待ち。

そして、ざっと40分後、27人が合流・出発の運びとなった。

前日、オイルシジャン（五日市場）から目にした道頭峰。体力に不安もあるが、多分大丈夫だろう。

濟州には、360以上のオルム（寄生火山）がある。オルムの一つ道頭峰は高さ65m、歩くコースは900m。向かい側のオイルシジャンから見えていたお寺から20分の散策コースになる。



最近整備されたらしい木製の焼き板階段は、カラー塗料で目立つ。そして、右側には手すり用のロープがついている。直径5センチぐらいで持ちやすい。そんなに汚れていないから、付けてから日はまだ浅そうだ。いっきに階段を登りたくなる気分だった。

去年、ソウルでどうしてもたどり着きたい国師堂（クッサダン）の最後の階段10段ぐらいに手すりがなかった。やや急だったので、手すりがないとだめだ。目の前であきらめた苦い経験がある。

フィールドワーク4日間（私は都合で2日間）の最初の目的地だったし、前日、シジャン（市場）から下見をしていたので、たったの65mだったけれど、頂上到着は嬉しかった。

私は、オルム登頂4つ目だ。36年前にむくげグループと漢拏山とイルチュルボン（日出峰）に登った。イルチュルボンもオルムだ。道頭峰の3倍の高さ、他のオルムとは違った形の峰だ。40歳代だったから、すいすいと登れたのだと思う。

気が付かなかったが、すでに登ったオルムがある。南の方のアルトル飛行場の近く「ソダオルム」に13年前、登ったというより、オルムの地下壕に入った。研究会のあのフィールドワークで、地下壕の突き当たりから外に出ると、海が見えた。地下壕のそばには、虐殺現場となった弾薬庫が掘られていた。

解放後、朝鮮戦争前の予備検束で虐殺された人が252人。何年間かお世話になったタクシー運転技師ニム・文仁祥さんのアボニム（お父さん）の名前もソダオルムの慰靈碑に刻まれている。

資料館として公開されている「カマオルム」以下の地下壕は、総延長約2kmにも及ぶ。2006年、非公開の迷路のような地下壕にも入った。

道頭峰の頂上からは、北に海、南に滑走路が見える。遠くには1950mのハルラ山が見えた。滑走路を挟んでオイルシジャンの屋根も見え、離着陸が続いている。

別の道を降りた。下方に地下壕が3か所掘られている。オルムと見れば、必ずトンネル状の壕が見つかる。道頭峰の3つの地下壕は、塙崎さん（濟州に残る旧日本軍遺跡研究家）の説明によると、そもそもは空港の付属施設で、燃料等の貯蔵庫だった可能性が高いとのこと。山頂には、かつて貯蔵タンクもあったそうだ。壕内は立ち入り禁止だから、外から暗い穴を見るだけだったが、気になるので、5月に壕の写真を撮りに行った。動員された人は、濟州の男性たち。沖縄戦直前から掘削が始まっていた。

西北部のどこからでも見える親しみのあるオルム・道頭峰。久しぶりの登山にひとり感動した。

